

令和 7 年度森林・林業白書の総括

1. 閣議決定・公表までの経緯

(1) 令和 7 年度白書では、特集において、「森林資源の循環利用の確立に向けて～木材利用と再造林をつなぐ～」をテーマとし、木材利用拡大や再造林推進に向けた取組、木材利用と再造林をつなぐ取組などを紹介し、森林資源の循環利用の確立に向けた今後の方向性について記述した。

トピックスでは、

- ①大阪・関西万博で木材利用の機運が醸成
- ②山の地方創生に向けた「森業」の推進
- ③スマート林業の新たな展開～技術開発と現場実装～
- ④昭和100年～先人が築いた森林を次世代へつなぐ～
- ⑤大船渡市林野火災からの復旧と今後の消防防災対策を紹介・解説した。

(2) 昨年 9 月の林政審議会で諮問し、その後、計 3 回の施策部会において御審議いただき、本年 4 月の林政審議会において、その結果を受け林政審議会会長より答申が行われた。6 月 2 日に閣議決定の後、国会提出を行い、公表した。(別添 1)

令和7年度森林・林業白書の総括

2. 閣議決定・公表後の動き

(1) 報道

日本農業新聞や時事通信等においては、白書の特集で取り上げた資源循環利用の確立について紹介され、日刊木材新聞や林政ニュースでは、木材取引の適正化について取り上げられた。また、共同通信や地方紙では、建築用の国産木材が5割を維持していることが見出しとなった。（別添2）

(2) 広報・普及

閣議決定本の配布、ホームページへの掲載、市販本の出版、紹介記事・SNSの投稿、白書を紹介する動画による広報等を行った。

また、林野庁の担当者が説明会で、現時点で計33回（うちオンライン9回）、約1,600名に白書概要の説明を行った。昨年に引き続き、平日昼間に参加が難しい方を対象に林野庁単独で平日夜及び日曜日のオンライン説明会を開催した。（別添3）

(3) 主な評価

説明会でのアンケート調査等では、木材利用や再造林の取組について知ることができた、また、それらを両立させることの重要性が印象に残ったとの評価が多く見られた。具体的な評価については別添4のとおり。

令和 7 年度森林・林業白書の閣議決定・公表までの経緯

令和 7 年 9 月 2 日 林政審議会
(諮問)

第 1 回施策部会
・作成方針(案)の検討

12月10日 第 2 回施策部会
・令和 7 年度森林及び林業の動向
(構成(案)、主要記述事項(案))

令和 8 年 2 月 20 日 第 3 回施策部会
・令和 7 年度森林及び林業の動向(素案)
・令和 8 年度森林及び林業施策(素案)

4 月 22 日 林政審議会
・令和 7 年度森林及び林業の動向(案)
・令和 8 年度森林及び林業施策(案)
(答申)

令和 8 年 6 月 2 日 閣議決定・国会提出・公表

令和7年度森林・林業白書に関する主な報道について（1／2）

紙名	日付	記事の概要
共同通信 ※同様の記事が複数の地方紙（西日本新聞、千葉日報、宮崎日日新聞等）に掲載	6月2日	建築向け国産木材、5割強を維持 林業白書、木造化推進が鍵 ・ 建築用の国産木材割合について、24年は23年から2.4ポイント減少したものの、52.9%と2年連続で5割超を維持していることを紹介。 ・ 建築用木材の需要の大部分は低層住宅だが、白書は「人口減少などにより新設住宅着工数は長期的に減少していく」と警鐘を鳴らしており、耐火性や耐震性を高める技術開発が進展していることから、低層住宅だけではなく非住宅・中高層建築物での普及を訴えていることを紹介。
時事通信 iJAMP	6月2日	森林の循環利用確立を＝国産材利用、木造化で需要拡大―林業白書 ・ 木材資源としての森林を適切に使い、伐採後に再び植林する「森林の循環利用」の確立が求められていることを強調していることを紹介。 ・ 国内の人工林の6割が木材としての利用期に入っており、国産材のさらなる需要創出のため、中高層建築の木造化に向けた技術開発や、木材使用の脱炭素効果を分かりやすく評価する制度などでの後押しについて記載。 ・ 森林保全や木材の積極的な利用を通じて顧客や投資家から評価を得ようとする企業の動きが広がっていることを紹介。
日刊木材新聞	6月5日	「木材利用と再造林をつなぐ」焦点に サプライチェーン全体の木材取引適正化に踏込む ・ 白書の特集では、木材利用と再造林をつなぐ取り組みに焦点を当て、なかでも木材取引におけるサプライチェーン全体での再造林が可能となる適切な価格交渉の重要性などに踏み込んだことを紹介。 ・ 建築物への木材利用をめぐる新たな動きとして、建築物ライフサイクルカーボン評価の制度化に向けた検討やSHK制度の見直しにより、木材利用の効果が定量的に評価され、木材利用の後押しになることに期待を示したことを紹介。 ・ 白書のトピックスと通常章各章について、それぞれ簡潔に紹介。

令和7年度森林・林業白書に関する主な報道について（2／2）

紙名	日付	記事の概要
日本農業新聞	6月3日	森林・林業白書が決定 資源循環利用確立を特集 ・特集では、日本の人工林の約6割が利用期を迎えることを受け、再造林の推進に向けた対応や課題、建築物などへの利用拡大について取り上げたことを紹介。 ・森林資源の利用と造成を巡る100年間の変遷、大阪・関西万博、森業、スマート林業、林野火災について紹介。 ・2025年度森林・林業白書の構成について表で紹介。
	6月24日	【論説】25年度森林・林業白書 再造林で山村を豊かに ・樹齢51年以上の人工林が約6割を占め本格的な利用期を迎えているが、伐採のスピードに比べて再造林の取組が鈍く、伐採面積に対する再造林は5～6割程度にとどまっていることを紹介。 ・再造林が進まない原因として後継者不足や採算が合わないことに言及し、このまま再造林が進まないと災害のリスクが高まることを危惧。 ・白書に書かれている再造林の課題に取り組む各地の優良事例を紹介し、森林環境譲与税の活用や木材自給率の回復にも触れつつ、再造林の推進によるCO2削減への期待について記載。
林政ニュース	6月10日	『白書』が再造林可能な価格形成を求める 木材取引での「適切な価格交渉」不可欠 ・特集の中で、日本の再造林の現状について、このまま主伐が進行すると循環利用が担保できなくなる恐れがあるため、再造林問題の解消が喫緊の課題であることが強調されていることを紹介。 ・再造林が進まない原因として造林初期費用が立木販売収入を上回っている実態をあげ、木材取引において適切な価格交渉が必要であることを紹介。 ・再造林を推進するための具体的手法として、林業適地の選定や森林の集積・集約化、伐採と造林の一貫作業やエリートツリーの活用を紹介。

令和7年度森林・林業白書の広報・普及について（1／4）

1. 白書本文の普及

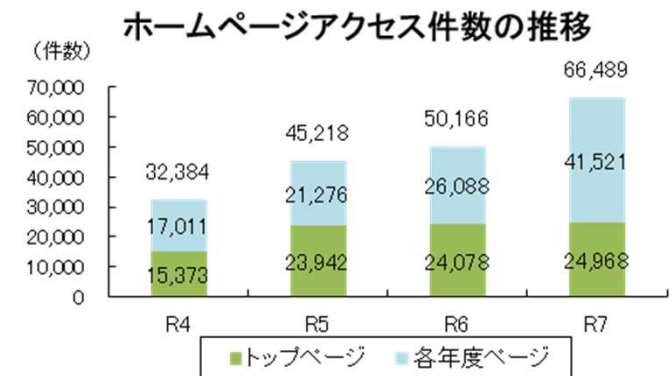
（1）閣議決定本の配布

閣議決定本を2,450部印刷して、国会に提出（約100部）するとともに、関係府省（約150部）、都道府県（235部）、都道府県立林業研究機関（約50部）、国会図書館（20部）、都道府県立図書館（約100部）、市立図書館（政令市のみ）（40部）、林業関係団体（約360部）、林業系高校（70部）、大学・短期大学等（約70部）等に配布。

（2）ホームページへの掲載

農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載し、9月にHTML版を掲載予定。7月までのアクセス数は約7万件（森林・林業白書トップページ約2万5,000件、令和7年度森林・林業白書ページ約4万2,000件）。

広告用コンテンツとして、白書紹介動画をトップページ等に掲載。また、白書説明動画を作成し、令和7年度森林・林業白書ページに掲載（約1か月間の再生回数約1,070回）。



2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった者に対し出版許可を行い、市販本計3,800部を出版・配布。

- ・一般社団法人全国林業改良普及協会：3,800部

令和7年度森林・林業白書の広報・普及について（2／4）

3. 説明会の開催

6月から7月にかけて、林業関係者、大学等に対して、現時点で計33回、約1,600名に対して、森林・林業白書の概要を説明（林野庁企画課の担当者が対面又はWEB会議形式で実施）。説明会ではアンケート調査を実施。

（1）4白書合同説明会

オンラインにて、農・食・林・水4白書の合同説明会を開催。都道府県、市町村、林業関係者等を中心に、計3回、約310名が参加。

（2）大学等での説明会

全国の大学等において、主に講義の一環として、白書説明会を開催。農学部等の学生を中心に計24回、約900名が参加。現在、1校と調整。

北海道大学、岩手大学、秋田県立大学、山形大学、東北農林専門職大学、筑波大学、宇都宮大学、東京大学、東京農業大学、東京農工大学、東京環境工科専門学校、日本大学、新潟大学、信州大学、三重大学、京都大学、京都府立大学、近畿大学、岡山大学、高知大学、九州大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学 ※調整中：名古屋大学

（3）林野庁単独の説明会

平日昼間の説明会参加が難しい方を対象に平日夜及び週末（日曜日朝）に林野庁単独の白書説明会（オンライン）を2回開催。約220名が参加。

令和7年度森林・林業白書の広報・普及について（3／4）

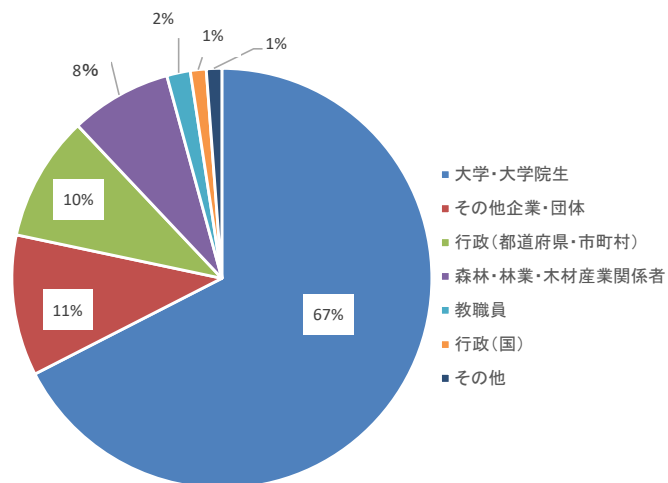
（4）その他の説明会

以下の組織・団体等において白書説明会を3回開催（2件調整中）。約190名が参加。

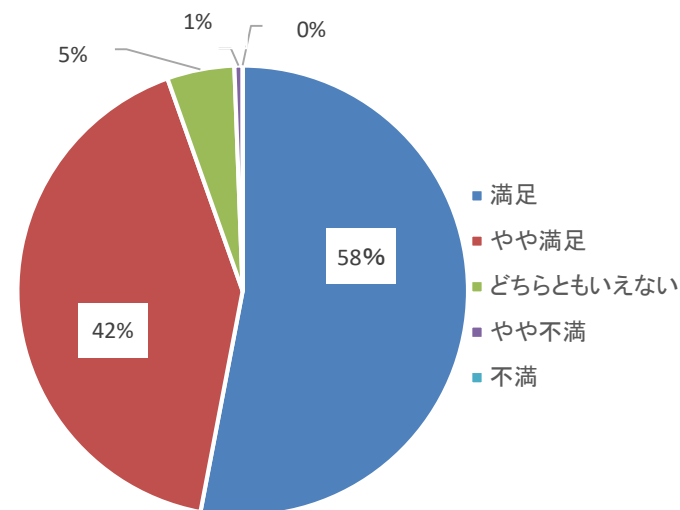
〔 林政ジャーナリストの会、日本ウッドデザイン協会、森林共生フォーラム 〕

（参考）説明会におけるアンケート結果（回答数：166件）

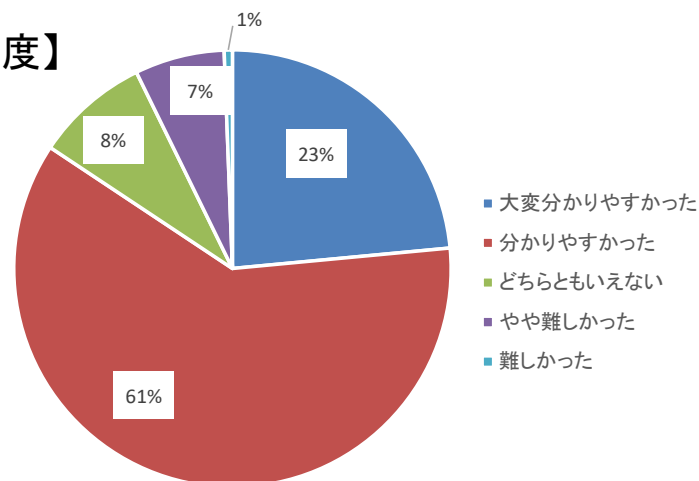
【職業】



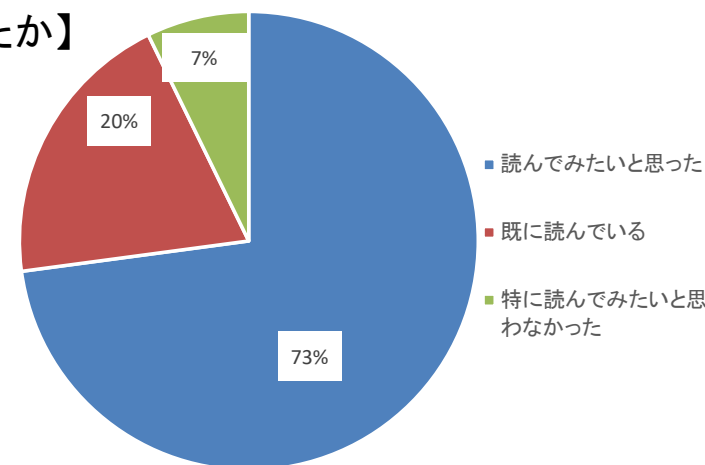
【説明会の満足度】



【説明の難易度】



【白書を読んでみたいと思ったか】



令和7年度森林・林業白書の広報・普及について（4／4）

4. 紹介記事の投稿

森林・林業関係誌等に、白書の紹介記事を投稿。

- ・「林野-RINYA- 6月号」（林野庁広報室）
- ・「森林組合 7月号」（全国森林組合連合会）
- ・「森林技術 7月号」（日本森林技術協会）
- ・「山林 8月号」（大日本山林会）
- ・「森林と林業 8月号」（日本林業協会）
- ・「林業経済 8月号」（林業経済研究所）
- ・「林野庁 公式X」（林野庁広報室）
- ・「林野庁 公式フェイスブック」（林野庁広報室）

5. その他の情報発信

農林水産省「消費者の部屋」において、森林・林業関連図書と併せて白書を紹介する展示を実施（8/3～8/7）。

MAFFチャンネル（Youtube）にて白書紹介動画を引き続き2種類公開。

MAFFチャンネル（Youtube）にて令和7年度白書の説明動画を公開（7/21～）。

農林水産省Instagramにて令和7年度白書の広告を公開（7/10～8/10）。

令和 7 年度森林・林業白書に対する主な評価 (1 / 3)

1. 全般に関するもの

- 取組の具体例や写真、データが多く視覚的に分かりやすかった。
- 色々なことを書いている文書はあまり更新されないイメージを持っていたが、森林・林業白書は毎年少しずつ更新されているのはすごいと思った。
- 不特定多数の方に森林・林業・木材産業の現状を理解してほしいのであれば、もう少し簡潔に分かりやすい文面にしてはどうか。
- 余白が少なく文字が多すぎて読みにくい。

2. 特集に関するもの

- ライフサークルカーボンや再造林における集約化など、各方面に対して具体的な革新が多く、林業に対して非常に将来性を感じた。
- 木造の中・高層建築物を増やそうとしていることが印象に残った。木造住宅の温かみのある雰囲気が好きなのでうまくいくといいと思った。
- 木材が様々な課題を解決する手段になることを知り、驚いた。
- 造林の省力化や低コスト化を通じて林業を稼げる産業にしていく必要があることが分かった。

令和7年度森林・林業白書に対する主な評価（2／3）

3. トピックスに関するもの

- ・ 森業における人と森林の関係の深化に関心を持った。そのような取組についてもっと知りたいと思った。
- ・ 昭和から起算して100年であるということにちなんだ政策があることに関心を持った。過去に学ぶ姿勢は大切であると感じた。
- ・ 大船渡市林野火災について現在行われている復旧内容を初めて知った。これから白書を読むことでこういった情報を取り入れるきっかけとしたい。

4. 通常章に関するもの

- ・ 個人的にメガソーラーの増加には懸念を抱いていたので、メガソーラーに関する基準が厳しくなったことが印象に残った。
- ・ 林業では生態系や生物多様性の保全を考えていないと思っていたが、近年それを促進する法律や取組が出てきていることを知ることができて良かった。
- ・ 消費者等に対する木材利用の普及について印象に残った。地元にも最近子供が木に触れて遊べる施設が出来ていたので身近に感じた。
- ・ 木材の記載が増えてきたように感じ、川下にも光が当たってきて希望が持てた。
- ・ 過去データからの推移比較のため白書を活用している。新たなデータもさることながら、過去からのデータの継続掲載や継続取得の妥当性を検討してほしい。

令和7年度森林・林業白書に対する主な評価（3／3）

5. 今後の自書で記述してほしい内容

- ・ 特集やトピックが毎年変わることに驚いた。これからも続けてほしい。
- ・ 森林管理における最新技術の活用について、さらに詳しく取り上げてほしい。例えばドローンや人工衛星、AIを利用した森林資源の調査等の具体的な事例を知りたい。
- ・ 広葉樹の活用について関心がある。
- ・ 治山工事において、土木資材としての木材利用がどのくらい行われているか、具体的な数値を知りたい。
- ・ 地域ごとの林業的特徴や現状などについて書いてあるとおもしろいと思う。
- ・ 森業の今後が気になるので、進展があれば今後も記載してほしい。
- ・ 木材の新たな使い道について、最新の情報があれば掲載してほしい。